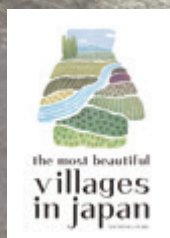


広報④
No.721
令和6年

いいたて3

www.vill.iitate.fukushima.jp

特集
なりわいのリレー





司会 和合敦子さん
(FMポコパーソナリティ)



ファンク・トリオ＝尺とらズ



奥州相馬赤坂神楽団



いいたてフラクラブ



荒木真さん
(バイオリン演奏)



琴の会



山岸安博さん(ギター弾き語り)



いいたて太極拳サークル



ゲスト(腹話術)
ポンちゃん一座

いいたて村芸能発表祭

2月18日、交流センター「ふれ愛館」で、「令和5年度いいたて村芸能発表祭」を開催しました。震災前から村で活動を続けてきたサークルによる発表、楽器を使った演奏や弾き語り、伝統芸能の神楽などが披露され、集まった観客を魅了しました。

ゲストで出演した「ポンちゃん一座」は、日本代表として世界大会への出場が決まったという大人気腹話術師。観客とのやりとりを交えながら、巧みな話術で笑いを誘いました。もう1組のゲストは、「笑点」にも出演経験がある「めおと楽団ジキジキ」。昨年に続く出演で大トリを務めました。明るく楽しくリズムカルにネタを連発し、会場は爆笑の渦に包まれ、楽しい笑いが響き渡りました。



ゲスト(音曲漫才) めおと楽団ジキジキ



輝くような金色の花を咲かせるフクジュソウ。

目次 CONTENTS

- 02 話題「いいたて村芸能発表祭」
- 04 特集「なりわいのリレー」
- 10 報告「魅力向上発信事業」
- 11 報告「ミチシル旅」
- 12 報告「能登半島地震 支援活動リポート」
- 13 報告「福島大学・明治大学活動報告会」
- 14 空から百景「三寒四温」
- 16 ほけんとふくし「自殺対策強化月間」
- 17 学びの広場「手づくり風の凧揚げ」ほか
- 18 いいたて便り
- 20 話題のパレット
- 22 村からおしらせ
- 24 いいたてイノサル通信
- 25 歴史の散歩道／ふれ愛館だより
- 26 いいたてDIARY／村民広報委員コラム
- 27 愛楽故郷味／ひとのうごき
- 28 ほっとNEWS／飯館村検定

📷 今月の表紙



飯館村でいい牛を育てたいと志す2人の“さとうたか”さん。まだ面識がない2人ですが偶然にも北海道の大学の先輩後輩になるようです。P 4からの特集をぜひご覧ください。

村はイベントや取り組みを取材し広報紙やホームページに掲載しています。写真掲載に不都合がある方は、お手数ですが、村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1613 までお知らせください。

なりわいのバトンを

受け継ぐ人がいます

東日本大震災から間もなく13年を迎えます。

震災に伴う原発事故の影響で全村避難となった飯館村では、多くの人が「なりわい」の中断を余儀なくされ、そのまま廃業に追い込まれた人も少なくありませんでした。また、先の見通しが立たない中、「なりわい」を何とか継続しようと避難先で取り組んだ人も大変な苦勞をされました。

長泥地区を除く19の行政区で避難指示が解除されたのは平成29年。発災からおよそ6年が経過していました。そのような状況から「なりわい」を再開することは並大抵なことではありませんでしたが、前を向き、課題を乗り越えながら、村内で事業を再開する動きが「つまたつ」と生まれていきました。

今回、3・11を前に、「なりわい」のバトンを受け継ぐこうとしている「ふるさとの担い手」にお話を聞きました。なりわいのリレーの4つのエピソードを紹介します。



『手打ちうどんの店 糸びす庵』の老舗の味は両親と共に暖簾を守る高橋均さん(飯樋町)が受け継いでいます。



『氣まぐれ茶屋ちえこ』P 9の記事へ。



佐藤隆人さんは祖父、父らが営む牧場で畜産のやりがいに触れました。P 7の記事へ。



地域活性化に取り組む飯館村商工会青年部の皆さんもなりわいをリレーする担い手集団。



親世代の心意気を継いで次世代も参入。規模を拡大して集落営農に取り組む『13区営農組合』。



『前田明神そば』P 8の記事へ。



北海道の大学で畜産を学び、この春卒業を迎える佐藤天斗さん。避難により小学3年生でふるさとを離れましたが、祖父、伯母がつないだ家業の畜産を自分の仕事にしようと考えています。(アルバイトをしている北海道の牧場の牛舎にて) P 6の記事へ。



祖父母(右の2人・隆男さんとたつよさん)、両親(左端が父・豊洋さん)、伯父が働く牧場。震災後は繁殖を中心に行っています。母牛と経産牛、合わせて約300頭を飼養。

「牛を継ぐように言われたことは一度もない」そう。自分で決めて行動することが佐藤家の基本。大学では「畜産をやるう」としている同世代とつながりが持てたらしい。



天斗さんがアルバイトで働く北海道北広島市の坪田牧場。卒業後は従業員として働きます。

ふるさとで畜産を一

2人の「さ」とつたかとさん

将来は飯館村で畜産をなりわいとして、自分の意志で、その未来を目指し、一歩一歩、歩みを進めている若者がいます。今回紹介するのは奇しくも2人の「さ」とつたかとさん。震災によりふるさとを離れて育った2人の「なりわいのリレー」を取材しました。

佐藤 天斗さん (上飯樋)

この春、北海道江別市の酪農学園大学を卒業する天斗さん。アルバイトをしている牧場でさらに1年従業員として働き、村に戻って牛農家を引き継ぎたいと考えています。「じいちゃんの仕事を継ぐと決めたのは幼い頃。震災で村を離れることになり、再び目指し始めたのは高校入学後でした」。

「もう一度ぐやちえんだ」と語っていた祖父・細川義孝さんを令和元年に亡くし、伯母の細川恵美さんが牛舎を再建。そのバトンが次の世代へ受け継がれようとしています。

「村を離れたくなかった」と振り返る避難。大阪で半年程を過ごし北海道江別市に転居。「じいちゃん達には年に1、2回しか会えなくなかった」。しかし、牛の仕事を継ぐ夢は心の奥に息づいていました。「村は自分が落ち着く場所」。

福島明成高校を卒業し、4月から酪農学園大学に進学する隆人さん。昨年は県を代表し「第74回日本学校農業クラブ東北連盟大会」で意見発表を行うなど活躍の1年になりました。意見発表の内容を深め「第51回毎日農業記録賞」(毎日新聞社主催)にも応募。高校生部門で上位7人の全国表彰を受けました。また、福島民友新聞の新春企画「環境座談会」で他校の生徒と共に内堀雅雄知事との意見交換に臨んだり、2月には福島

佐藤 隆人さん (飯樋町)

市で開催されたイベントに招かれ特別発表を行ったり。「いろいろなチャレンジができました」。

「頭数が多くても親父はきちんと牛を見ている。経営のことも考え、新しいことをどんどんやろうとしている」と父・豊洋さんを尊敬。将来的には飯館で、まぐいな牛づくりを目指します。「心を込めた飼養管理ができる人になりたい。いい牛をつくることで、飯館を福島をもっと多くの人に知ってもらいたい」。



北海道江別市にある酪農学園大学。他大学も進路の候補にありましたが、家業と近い環境でより実践的な学びができる同校への進学を決めました。偶然にも、天斗さん(P6)の後輩になります。



大学の循環農学部畜産学コースで学びました。「牛は愛情をかけて育てた分、成長する。牛の行動の意味を読み解くのも面白いし、かわいいですね」。動物好きの天斗さん。冬の作業も苦にならないそう。



祖父・細川義孝さんの遺志を継ぎ小学校教諭の前職を辞して牛農家になった伯母の細川恵美さん(右)。「天斗がいるから安心して牛の仕事に取り組んでいます」。左は祖母の恵美子さん。



「親子は“気まま”になりがち。あと2年でバチッと引き継ぎたいな」と千榮子さん(左)。「いやいや大女将でいてください」とかおりさん。ユーモアを含んだ語り口も親譲り?



冬季休業の期間に行う凍み餅づくり。厚みのある分じつくりと乾燥させます。

佐々木かおりさん (大久保・外内)

営業は木・金・土・日曜日の午前11時30分〜午後3時 / 5日前まで要予約 / 3月まで冬季休業※団体予約には対応
☎ 0244(42)1303

氣まぐれ茶屋ちえこ

震災後の再オープンは今和元年。娘のかおりさんは自身も仕事を持ちながら、仙台から通って千葉をくぐり来店します。

避難の間も家業を支え道半ばで亡くなった弟・剛さんの歩みを引き継ぎ、数々のイベントにも出店。将来的には、「昔ながらの食を大事に残しながら、カフェメニューやSNSの発信にも挑戦したい」と考えています。数々の困難を乗り越えてきた大切なバトンが、継がれていきます。

季節の野菜や山菜、伝統の保存食などを丁寧に仕込んだ味わい深い料理が並びます。還暦目前の平成16年に農家レストラン『氣まぐれ茶屋ちえこ』を開いた佐々木千榮子さん(佐須)。「昔ながらの田舎料理」とお茶目に笑いますが、愛情たっぷりに手をかけた料理はむしろ新鮮で贅沢。観光客から顔馴染みまで、期待に満ちた笑顔が暖簾をくぐり来店します。

子さんを手伝ってききましたが、「再オープンの中には気持ちが決まって」令和3年に帰村。昨年は、福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センターで醸造を学び、この冬のどぶろくを仕込みました。

さまざまなイベントにひっぱりだこ。日本橋ふくしまMIDETTE (ミデッテ / 東京都中央区) では2人でキッチンに立ち「氣まぐれ定食」を提供(令和5年8月)。



(右上) 2月、在サンフランシスコ日本国総領事館公邸で開かれた天皇誕生日祝賀レセプションで、どぶろく「白狼」の試飲と飯館村のPRを行いました。写真はPRブース。大隅洋総領事夫妻がこれまでの労苦をねぎらう言葉をかけてくださいました。(左上) 渡米を前に吉田宣弘経済産業大臣政務官を表敬訪問。試飲した政務官や職員の方の「辛口でおいしい」という感想に「うれしかった」とかおりさん。「どぶろくづくりはこれからも研究を続けます」。



レセプションに併せて福島県産の酒類をPRする経済産業省の事業に村も協力。サンフランシスコでのPRが実現しました。



前田明神そば生産組合

長谷川 義宗さん (前田)

約25haの農地で蕎麦を生産し、道の駅までい館のレストランに蕎麦粉を提供している義宗さん。『前田明神そば生産組合』は、亡き父・健さんが「我々が拓いた農地を荒れたままにはできない」と蕎麦の生産を決意し、帰村後、仲間と立ち上げた組合です。組合全体では約45haの農地を管理しています。

震災前は、3世代同居の大家族で酪農をなりわいとしていました。廃業を余儀なくされ、義宗さんは避難後、福島市の復興牧場で働いています。

ところが奮闘していた健さんを突然の病が襲います。令和3年秋、

「蕎麦を刈らなくては」と医師に懇願し退院してきた健一さんを支え、家族が協力して蕎麦を刈りました。「亡くなる前、具合の悪い中で、蕎麦について教わったんです。やらないわけにはいかない」。代表を引き継いだ義宗さん。「助成を活用している事業ですから、続けるより他はない」と覚悟を決め、組合で協力して蕎麦を栽培しています。休日には姉夫婦も応援に駆けつけます。

去年は猛暑に苦戦しました。「まずは収量の増加が目標」です。雪解けを待つ今年作の作業が始まるそう。おいしい蕎麦を待っています。



酪農の仕事と2足のワラジで頑張る義宗さんを支える家族の皆さん。「つないでくれたことが本当にうれしい。収量が上がっていくといいね」と祖父の利治さん(前列中央)。



「前田明神そば」は道の駅のレストランの手打ち蕎麦メニューで味わえます。直売所で蕎麦粉も販売されています。



斜面に広がる蕎麦の段々畑を大型機械が縦横無尽に走ります。荒れた農地の再生に奮闘していた健一さんの姿が重なります。生産する蕎麦は「会津のかおり」「にしゅたか」「信州大そば」の3品種。収穫時期など繁忙期には3人の子ども達も作業や家事を手伝います。

現在の飯館村について村外の皆さんにより広く知っていただく一歩は国の事業を活用し令和4年度から2つの事業に取り組んでいます。「いいたて魅力向上・発信事業」「移住検討者向けモニターツアー ミチシル旅」の令和5年度の報告です。

ミチシル旅 移住検討者向けモニターツアー

ミチシル旅から村への移住を検討



ツアーに2回参加して村への移住を検討している白鳥さん。現在は住宅を探しているところです。(上の写真はツアー時の様子。左手前の2人が白鳥さん夫婦)

白鳥茂さん
(東京都)

地域に溶け込む旅を

飯館村移住検討者向けモニターツアー「ミチシル旅」。令和5年度は、地域に溶け込む旅をコンセプトに、「はじめてのミチシル旅」と「つながるミチシル旅」をそれぞれ3回ずつ実施しました。飯館村の人と出会い地域の暮らしに触れることで、自分らしい生き方や暮らし方を見つめるきっかけにしたいと、未知を知る、道を知る、「ミチシル旅」です。

つながるミチシル旅

地域の方と触れ合い活動を共にして村の暮らしをより深く知る旅

はじめてのミチシル旅

「手仕事、文化」「農業」「子育て」をテーマに、村の魅力に触れる旅

第1弾

田植え踊りに挑戦



〈未来へつなぐひとりになる〉
小宮地区と伝統芸能 9月2日～3日

第2弾

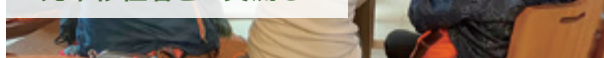
エゴマの収穫を体験



〈地域をつなぐわいの輪に入る〉
大久保・外内地区と農業 10月14日～15日

第3弾

先輩移住者との交流も



〈お母さんたちとつないでいく伝統食〉
前田地区と食文化 12月9日～10日

第1弾



〈手仕事、文化…手から生まれる飯館村の暮らし〉
7月1日～2日

第2弾



〈人と農の豊かさに触れる…飯館村の暮らし〉
7月22日～23日

第3弾



〈丁寧にゆったりと。飯館村の子育て暮らし〉
10月28日～29日

いいたて魅力向上・発信事業 食や農産物の魅力を高め伝える



「飯館村の農畜産物の安全性やおいしさを直接消費者に伝える」ことを目的に展開している「いいたて魅力向上・発信事業」では、多くの協力を得ながら、各地のイベントに出展（広報いいたて1月号の特集をご参照ください）。また、新メニューの開発や料理を提供するイベントを通じて、おいしい飯館村をPRしています。2月に開催された2つの素敵なイベントを紹介します。

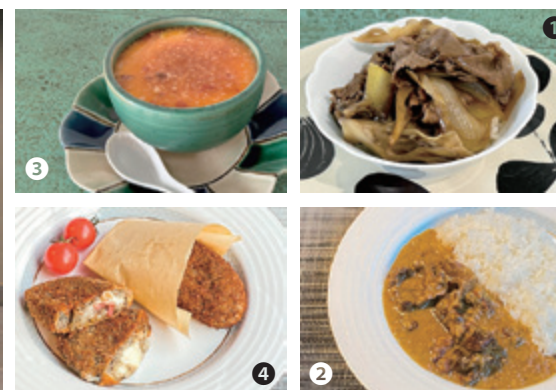


牛肉を提供した山田豊さん（関根・松塚）、凍み餅生産者の細杉今朝代さん（前田）、杉岡村長も出演しました。

「みんなのきょうの料理」オンライン料理教室

2月23日、キッチンプラットフオームT H E（郡山市）で、NHKエデュケーショナル「みんなのきょうの料理」オンライン料理教室が開催され、料理家の栗原はるみさん、大宮勝雄シェフが、飯館産の牛肉、凍み餅を使った絶品メニューを披露しました。食材の新たな魅力を引き出すレシピに、試食をした出演者は感嘆の連続。飯館の食の可能性が豊かに広がりました。同サイトでレシピを、インスタグラムで教室のダイジェスト版を公開中。飯館愛にあふれた栗原さん、大宮シェフのトークも必見です。

飯館の牛肉と凍み餅を使って



①まいたけ牛丼 ②牛すじのカレーライス ③凍みもちのチリソース茶碗蒸し ④凍みもちのチーズカツレツ（①③栗原さん、②④大宮シェフ）家庭でも作れるレシピを開発。



後藤繁栄アナ（右端）が読む視聴者の質問に笑顔で答える栗原さん。左端が大宮シェフ。

仙台市で開催「いいたてフェア」

期間限定で特別メニューを提供

2月、ルート227カフェ（仙台市）で、飯館村の食材を使った特別メニューを提供する「いいたてフェア」が開催されました。（写真右上から時計回りに）「トリユウ香る 飯館産黒毛和牛のライスボウル」「いいたて雪つ娘かぼちゃのプリンとあぶくまもちの甘酒ゼラート」「飯館産黒毛和牛となつはぜのバスタ」「村を訪れ生産者の皆さんと意見を交わして完成したメニューです」と岡垣利哉店長。仙台にて飯館の食材を魅力たっぷりに伝えていただきました。



「肉のゆーとぴあ」の牛肉（生産者：佐藤豊洋さん／飯樋町）、佐藤茂さん（深谷）のナツハゼ、までい工房美彩恋人の「いいたて雪つ娘かぼちゃ」、あぶくまもち生産組合のもち米「あぶくまもち」、佐々木千榮子さん（佐須）の「ごんぼっもち」を使用。食材の魅力を一皿にぎゅっと詰め込んで。

令和6年能登半島地震 支援活動リポート

渡邊富士男さん(飯橋町)の活動報告はP26をご覧ください。



一般社団法人
阿武隈クラブIITATE

長田卓也さん(上飯樋)

整骨院を営みながら、村民を支援する医療ケアのチームと連携して活動している長田さん。地震の一報を聞き、被災地の支援に向けてすぐに動き出しました。「出身の宮城県岩沼市で東日本大震災の津波被災を目の当たりにしている。身を寄せ合う初期の避難の厳しさを知っているだけに居ても立ってもいられなかった」。現地とつながり、福島県の災害派遣等従事車両の登録を得て、自費を投じ現地を何度も往復しています。「公式の避難所以外にも行政の支援が届くようになり、必要とされる物資や支援も変化している。フェーズに合わせた支援が必要」。避難所は避難者の生活の場として尊重し長居せず実のある支援を行います。



生産者から預かったイチゴを避難所へ。



避難者の診療にあたる本田医師。



整骨院の機材を運び体のケアを支援。

2月2日からの4度目の現地入りには、いたてクリニックスの本田徹医師が同行。村の許可車両と2台で物資を運び、公式・非公式を問わず避難所をめぐるしました。被災をしながら支援者となつている住民とも交流し、その覚悟に寄り添いたいと思いを強くしています。「本場に必要なものにきちんと届けることが重要。そして我々が被災で得た教訓を伝え、今後に生かしていただくことが最も大切な活動だと思っています」。



健康福祉課健康係
保健師

村の保健師の落合さんはこの震災で立ち上げられたDC・CAT(災害派遣地域ケア支援チーム)を通じて輪島市の支援に入り、避難所となっている小学校の体育館で2月7日から1週間活動しました。「避難している方は毎日のように崩れた家に通い、片付けたたり物を探したりしていました。一瞬にして住む家や財産を失った方ばかり。二次避難の難しい方が多かった」。

一方、出かけられない人は避難所にこもる生活が続いてしまい、「高齢者の機能低下や栄養問題などがやはり起きてしまう」。落合さんらは、巡回する医療団と診療を必要とする人をつなぎ、また、生活不活発病の対策や清潔ケアのアドバイスなどを行い、避難所を支援しました。落合さんは、東日本大震災の際には宮城県でボランティア活動を行い、その後復興支援で福島県に移住しました。「いつどこで被災し、避難者あるいは支援者になるかわかりません。現地でしか経験できないことがあり、支援を通して多くの学びをいただいています」。



石川県



内閣府

参考

「人・農・食・いたて」未来につなぐ事業に協力する2大学の報告会が開かれました

福島大学・明治大学 活動報告会

2月7日、交流センター「ふれ愛館」で、福島大学食農学類飯館村フィールドの活動報告会が開催されました。学生の皆さんは今年度、ジャガイモ品種「イータテベイク」ともち米品種「あぶくまもち」の2つの地域資源に着目して、村の賑わいづくりに取り組みました。会では3年生が、8月のワークショップ「夏の宝探し」イータテベイクを掘って！学んで！食べて！の成果や、「あぶくまもち」のケーキと他のもち米のケーキを比較した分析結果などを報告。取り組みを引き継ぐ2年生は、来年度の活動案を発表しました。

福島大学食農学類 飯館村フィールド



Instagram



ワークショップの報告動画はInstagramでも公開しています。



報告に耳を傾けた来場者と、自由に意見を交わしました。

明治大学農学部 本所ゼミ



Instagram



卒業を控えたゼミ生も参加。「今後も村と関わり続けたい」。



本所靖博先生

2月13日には、明治大学農学部・本所ゼミの活動報告会が同会場で行われました。本所ゼミは農業経済系のゼミで、つくろる人と食べる人をつなげる多様な事業を各地で展開しています。飯館村での独自の活動は7年目。今年度は首都圏におけるPR活動として、マルシェや学園祭での農産物販売、企業とコラボしたメニューの開発や飲食店展開などを、関係者を村に呼び込みながら実行しました。

報告の中で「村の方の熱い想いに触れたことが活動の始まり。出会いに感謝しています」と語った本所先生。深化を目指す次年度の活動にも注目です。

生産者が協働の成果に感謝を伝えました。「本所先生の人柄に惚れて活動を共にしています」。



春を思わせるような暖かな日が続いたかと思えば真冬の寒さに逆戻り…。三寒四温という言葉がありますが、今年の2月の寒暖差は本当に極端でした。写真は2月下旬の上飯樋地区の風景です。季節外れの暖かさに萌え出た植物の淡い緑の上に、うっすらと雪が積もりました。奥の山には雪雲がかかっています。三寒四温の行ったり来たりを繰り返し、季節は次第に春へと移っていきます。

空から
百景

三寒四温



学園NEWS!

老人クラブ連合会×1年生
手作りの凧で凧揚げ体験

1月26日、いいたて希望の里学園の1年生と飯館村老人クラブによる、むかし遊びと凧制作が行われました。

児童達は、竹とんぼやゴム鉄砲などの使い方を老人クラブの方から教わり、楽しく遊びました。その後、凧にカラフルな絵を描き、竹串と紐、ビニールの足を付け、個性あふれる凧が完成。校庭に出るのを待ちきれず児童達が走り出すと、凧はホールの中で、見事に舞い上がりました。校庭に移動後も、凧に乗った凧は空高く上がりました。



優しく教え、見守っていただいた老人クラブの皆さん。貴重な体験をありがとうございました。

飯館村森林組合から学童保育へ
木製ボードゲームを寄贈

2月6日、飯館村森林組合、福島県森林組合連合会、農林中央金庫福島支店から、飯館村学童保育「つくしんぼハウス」へ、木製の「森林経営ボードゲーム」が寄贈されました。このボードゲームは、飯館村森林組合の長正景子さん(草野)が中心となり考案、田村森林組合(田村市)が加工を行い、炭素化した木材が使われています。児童達はさっそく遊び方を教わりながら、買った木を大きくしたり、売ったりと楽しんでいました。



「人生ゲーム」のように植林・育林・伐採・販売までの一連の流れを、楽しく学ぶことができます。

いいたて希望の里学園から
能登半島地震の被災地へ義援金

いいたて希望の里学園の全校児童生徒、同校PTA会員らが、それぞれの活動において能登半島地震への災害義援金を募り、寄せられた浄財10万9,212円を、2月7日に飯館村社会福祉協議会に手渡しました。児童生徒はこれまでも、「支援を受ける側から、支援を返す側になろう」と募金活動を企画し、被災地に支援の想いを届けてきました。

飯館村社会福祉協議会に託した募金は、日本赤十字社を通して能登半島地震の被災地に届けられます。



児童生徒会長の大島輝琉さん(8年生)が「被災地の方々へ大切に届けてください」と想いを伝えました。

本田先生に聴く

うた
こころとからだといのちの詩

第10回 自殺予防と子ども・女性・高齢者の健康

いいたてクリニック 本田 徹 先生



世界的に信頼され権威ある医学雑誌ランセットは、2017年に国連加盟188か国のSDGs(持続可能な開発目標)の達成度を、保健指標の面から比較・検討した結果を公表しています。それによると、日本は先進国の中では「中の下」の21位に甘んじています。日本が振るわない原因の第一は災害の多さ(自然災害及び原発事故のような人災の要素を含むもの)、そして自殺率の高さ、性的なものを含む子どもの虐待、喫煙率の高さ(公共施設や飲食店での禁煙規制の不徹底)が挙げられています。この結果と背景から、日本の今後の課題も見えてきます。

新型コロナウイルスの影響もあり、ピークだった平成15年の3万人超から、いったんは年間2万人以下に下がっていた日本人の自殺者数は再び上昇に転じ、令和4年には、2万1800人台まで上昇。とくに懸念されるのは、女性や子どもの自殺者数が増加してきていることです。福島県も昨年、人口10万人に対する自殺者数が全国でワースト7位という、かんばしくない数字となっています。

生き続けることを諦め自死を選んでしまう、子どもから女性・高齢者にまで及ぶ広範な人たちの苦しみの背景には、「社会的健康決定要因」と呼ばれる問題が横たわっています。学校や家庭や職場でのいじめ問題、女性に対する法的・社会的な、見えづらいことも含めた差別、孤立し支援の手が及ばなくなっている高齢者。こうした課題に私たち一人ひとりが、共感と理解をもつて協力し取り組んでいくことで、日本の福祉やSDGsも前に進むのだと思います。

3月は自殺対策強化月間です

3月は進学や就職、転勤など環境変化が多い時期であり、心身の負担が高まる時期でもあります。自分自身や身近な人の心の状態に目を向けてみてください。

不安や悩みを抱えたときは、誰かに話をするだけで心が軽くなったり、違った道が見えてくることもあります。まずはご相談ください。



相談窓口

飯館村のこころ・からだの相談窓口

健康福祉課健康係 ☎0244-42-1637

まもろうよ こころ (厚生労働省)

24時間電話での相談窓口、電話では相談しづらい方にはLINE等SNSでの相談等、悩みや年代に合わせたさまざまな形での相談窓口があります。
<https://www.mhlw.go.jp/mamorouyokokoro/>



◆ 同封のパンフレット「ひとりで悩んでいませんか」には各種相談窓口が掲載されています。



たくさんのお客様に、おいしい出会いを通して、飯館村の魅力、あぶくま地域の魅力を感じていただきました。

あぶくまロマンチック街道 沿線自治体の物産フェア

2月3日・4日、「コラッセふくしま」(福島市)で『あぶくまロマンチック街道沿線地域物産フェア』が開催され、村からは「いいたて結い農園」「村カフェ753(なごみ)」「ニコニコ菅野農園」が出店しました。

主催は「国道399号あぶくまロマンチック街道沿線自治体連絡協議会」。あぶくま山系を縦断する国道399号線の沿線自治体と関連団体が連携し、地域の魅力を発信しています。物産フェアには、各地域から選りすぐりの個性豊かな産品が並び、来場者が出店者と言葉を交わして買い物を楽しんでいました。

内堀雅雄福島県知事が 長泥地区を視察

1月24日、内堀雅雄福島県知事が来村。長泥地区に整備された「長泥コミュニティーセンター」を訪れ、出迎えた杉岡村長の案内で視察しました。

同センターでは、住民が外部の支援者とながりを深め「長泥植樹祭」などを開催していること、「花の里長泥」の再生に取り組んでいることなどを、杉岡村長が紹介。内堀知事は「もともと絆の強い素敵な場所。(コミュニティーセンターは)住んでいた人が集い、地区外、村外の人も加わって素晴らしい拠点になると思う」と力強く応えていました。



センターの見晴らし台から周辺を見渡し意見を交わす内堀知事(手前の2人の左側)と杉岡村長(同右側)。



遠藤充洋会長(中央)、幕田正高実行委員長(右端)から目録を受け取る高橋祐一教育長職務代理者(左端)。

南相馬ロータリークラブから 村の子ども達へ絵本の寄贈

2月15日、原町ロータリークラブ(南相馬市)から、いいたて希望の里学園とままでの里のこども園の子ども達へ、図書の寄贈をいただきました。同クラブ創立60周年の記念事業の一環で、図書を自由に選べるよう購入費として10万円を贈っていただきました。

また、同クラブからは、毎年、新入学児童に「ありがとうノート」を贈っていただいています。子ども達が「ありがとう」と感じたことを自由に書き留められる素敵なノートです。子ども達の心を育むさまざまなご支援、本当にありがとうございます。

善仁寺で防火訓練 第70回文化財防火デー

1月28日、善仁寺(草野)で『文化財防火デー消防訓練』を実施しました。今回の訓練では、善仁寺に隣接する家屋からの火災発生を想定し、関係者による初期消火や避難誘導、重要物品の搬送訓練、消防団・飯館分署による一斉放水訓練を行い、文化財に対する理解と認識を深め、防火の意識を高めました。

昭和24年1月26日、世界最古の木造建築物「法隆寺」の金堂壁画の焼損をきっかけに定められた「文化財防火デー」。この日を中心に、文化庁と消防庁が協力し、全国で文化財防火運動を展開しています。



訓練には飯館分署、村消防団、村教育委員会、村文化財保護審議会などから関係者約50人が参加しました。



村と皆さんをつなぐ広報紙。これからも村の顔として皆さんに寄り添い、元気を発信していきます。

第69回県広報コンクール 「広報いいたて」今年も入賞!

2月15日、『第69回福島県市町村広報コンクール』の表彰式が、福島県庁で行われました。1月中旬に行われた審査会において、「広報いいたて令和5年5月号」が広報紙(町村部)部門で佳作に入賞しました。「広報いいたて」の入賞は、今回で3年連続。震災後から数えて10回目の受賞になりました。取材にご協力くださる村民の皆さんと一緒にいただいた賞です。本コンクールは毎年開催されているもので、今回は県内35市町村が参加し、応募総数は85点、うち入賞作品は19点でした。

交流を深める ふるさとの担い手交流会

2月3日、交流センター「ふれ愛館」で、『飯館村ふるさとの担い手交流会』を開催しました。当初は移住者を対象に実施してきた交流会ですが、4回目となる今回は、より交流の幅を広げようと、村出身の方も参加できるよう規模を拡大しました。

この日は、「いいたて風だんご汁」の調理班と、「竹の箸」を制作する班に分かれて作業を行いました。「飯館村食を考える会」の皆さんも参加し、参加者の皆さんをサポートしていただきました。最後は参加者全員で、だんご汁を食べながら交流を深めました。



「いいたて移住サポートセンター」が主催。約40人の担い手の皆さんが、楽しく活動しました。





県内の大学から研究者の皆さんをパネリストに迎えて、凍み餅を中心に、地域の文化が多角的に語られました。



高橋トク子さん(深谷)を講師に凍み餅の藁編み教室を開催。販売コーナーでは村民が生産する凍み餅の販売も。

「凍み餅」の文化とおいしさを発信

2月23日、土湯温泉YUMORI(福島市)で開かれた「阿武隈高地の凍み餅を【食べる】シンポジウム」。冬の寒さを利用して作られる伝統の保存食・凍み餅の魅力を広く知ってもらおうと、「飯館までい文化事業団」が企画しました。研究者を迎えたシンポジウムの他、凍み餅を使った村民食堂やカフェ、ワークショップなどが行われ、県内外から訪れた約100人が凍み餅との出会いを楽しみました。また、阿武隈地域の文化を紹介する中で、小宮の田植え踊りも披露されました。



詳しい情報は溝口先生監修のこちらのサイトで▼



道の駅で期間限定「ハチ公そば」

忠犬ハチ公のオブジェが設置されている道の駅までい館に『ハチ公そば』が登場。ハチの飼い主・上野博士が創設した東京大学農業工学科の卒業生で同大教授の溝口勝さん(写真左)と、村民の帰村を待つ存在として村に贈られたハチ公オブジェの保存・継承を行う塚越栄光さん(同右／草野)が企画しました。いいたて愚真会の手打ち蕎麦に、子犬のハチを可愛がる上野博士をイメージした蒲鉾、ハチの好物だったとされる焼き鳥などをトッピング。提供は3月末日までの予定です。(レストランは施設メンテナンスで3月16日まで休止中。再開後にぜひご賞味を)。



心の復興コンサートを開催

2月3日、「ふるさと飯館で“自分らしく”生きよう会」が主催する『心の復興～絆を紡ぐコンサート～』が交流センター「ふれ愛館」で行われました。アコーディオニストの秦コータローさん(写真左)、シンガーソングライターの草野俊之介さん(写真中央)、北川たつやさん(写真右)の3人のゲストが、優しい歌声と音色で会場を魅了しました。バラードやポップな曲など計13曲を披露し、ユーモアあふれるトークを交えながら、観客との交流も深めていました。



「ラカッセ」が特製弁当を出張販売

1月26日、福島相双復興推進機構と福島復興局(共に福島市)で、「田舎レストラン ラカッセ」が特製弁当を出張販売しました。11月に経済産業省(東京都千代田区)で販売したのに続く取り組みです。「味噌漬けローストビーフ」「ナツハゼを使った混ぜご飯」など、村の特産品を中心に県内の食材を盛り込んだ約70個の特製弁当は、好評のうちに完売しました。



県立博物館「いいたてミュージアム」

福島県立博物館(会津若松市)のエントランスホールで、3月31日まで、ポイント展『いいたてミュージアム』が開催されています。展示されているコレクションは、避難当時、「いいたてまでのい会」が、エピソードと共に個人から収集した品々。全国各地を巡回して福島の現状を伝え、平成30年、会の活動休止に伴い博物館に寄贈されました。

今展では、コレクションが内包する“暮らしの記憶”を呼び覚まし、プロジェクトの意義を再考します。



関連イベント(申込不要・直接来場を)
美術講座「未来の記憶のために」(受講無料)
3月10日(日) 午後1時30分から
講師 港千尋さん
(写真家・著述家・多摩美術大学教授)



「まごころ」で送る冬のマルシェ

2月24日、「もりの駅まごころ」で『ワクワクあったかマルシェ』が開催されました。実行委員会の主催による2回目のマルシェ。生産者が店頭に立ち、来場者と交流しながら自慢の逸品を販売しました。村内はもとより村外からもたくさんの人が来場。企画の中心の1人、鮎川邦夫さん(小宮)は「天気がよくてよかったね」と活気に満ちた会場を見渡しました。工夫を凝らしたホカホカのメニューも多彩に登場し、冬ならではの素敵なマルシェに、おいしい笑顔が広がりました。



飯館村10大NEWS!動画を公開しました

2月22日、令和2年度から毎年行っている「飯館村10大ニュース」の発表動画を、動画投稿サイトYouTubeの飯館村公式チャンネルで公開しました。毎年こだわっている撮影場所にもご注目。今年はリニューアルオープンした、あの場所からお届けしています。

2023年を彩った飯館村の10大ニュースは果たして…。ぜひご家族と、ご友人と、動画をお楽しみください。



令和5年の飯館村を映像で振り返ります。



飯館村10大ニュース

10大ニュースを伝えるのは、毎年恒例、フレッシュな若手職員です。今回担当したのは、令和5年度新採用職員の豊永拓也さん(総務課/右)と巻野凌さん(村づくり推進課/左)。2人の司会ぶりも、ぜひご覧ください。

2月の村の動きと主なできごと

- 25日・スノースポーツ体験教室(あだたら高原スキー場)
- 23日・魅力向上発信事業「みんなのきょうの料理」オンライン料理教室(郡山市・キッチンプラットフォームTHE)
- 22日・JA飯館地区稲作振興大会(交流センター「ふれ愛館」)
- 21日・健康づくり推進協議会(村役場)
 - ・多面的推進協議会(交流センター「ふれ愛館」)
- 20日・農業委員会定例総会(村役場)
 - ・いいたて希望の里学園 タウンミーティング(村役場)
- 18日・第4回長泥地区将来構想検討委員会(福島県青少年会館)
 - ・いいたて村芸能発表祭(交流センター「ふれ愛館」)
 - ・ふくしまフェスタinらぽーと横浜(神奈川県横浜市・らぽーと横浜)
- 15日・総合教育会議(村役場)
 - ・定例教育委員会(村役場)
- 15日・16日・農業委員会視察研修(浪江町/茨城県つくば市)
- 15日・3月15日※土日祝除く・令和5年分申告相談(ビレッジハウス)
- 9日・令和5年度第4回行政区長・副区長会議(宿泊体験館きこり)
- 8日・飯館YOUTOKO発見！ツアー検討委員会(交流センター「ふれ愛館」)
- 7日・福島大学食農学類・飯館村フィールド成果報告会(交流センター「ふれ愛館」)
- 3日・4日・あぶくまロマンチック街道沿線地域物産フェア(福島市・コラッセふくしま)
- 2日・第2回介護保険運営協議会(いちばん館)
- 1日・29日・魅力向上発信事業 ルート227カフェ「いいたてフェア」(宮城県仙台市)

住民票・印鑑登録証明書 コンビニ交付サービス開始のお知らせ

令和6年4月1日から、全国のコンビニエンスストアなどに設置されているマルチコピー機(キオスク端末)で証明書が取得できるようになります。

- 取得できる証明書 (1)住民票の写し(全部・一部) (2)印鑑登録証明書
- サービス提供時間 午前6時30分～午後11時まで(各店舗の営業時間内) ※年末年始(12月29日～1月3日)、システムメンテナンス時は利用できません。
- 利用可能店舗 セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート等、マルチコピー機(キオスク端末)が設置されている全国のコンビニエンスストア等
- 必要なもの 個人番号カード(マイナンバーカード) ※「利用者証明用電子証明書」を登録している必要があります。 また、暗証番号(数字4桁)の入力が必要となります。
- 交付手数料 1件につき200円

問 住民課住民係 ☎0244-42-1618

子育て支援センター 開放日のお知らせ

春休み期間の3月23日・24日に、「飯館村子育て支援センター」を開放します。センターには、木製の遊具や玩具、絵本をはじめ、さまざまな年齢層に適した遊び道具が用意されています。ぜひ遊びに来てください。

3月の開放日について

- 開放日時 3月23日(土)・24日(日) 午前9時～午後3時
- 対象者 0歳から小学6年生まで ※保護者同伴でお願いします



問 健康福祉課福祉係 ☎0244-42-1633

● 当日連絡先 ▶ 飯館村子育て支援センター ☎080-5737-4635

飯館村子育て支援センター



「POLICEアプリふくしま」運用開始

福島県警では、安心して安全な生活の参考にしてほしい情報を掲載したアプリの運用を開始しました。犯罪発生などの地図情報や防犯ブザー機能などを搭載しています。ぜひご利用ください。

POLICEアプリふくしま

アプリはQRコードからダウンロードできます。



作見の井戸

作況を占う伝説の井戸

歴史の散歩道

深谷地区に『作見の井戸』と呼ばれる不思議な井戸があります。寛文9年（1669年）に相馬藩3代藩主・相馬忠胤の命によりこの地に移住した佐藤庄左衛門義信が設置したと伝わります（一方で隣接する勢至観音堂の井戸とする説もあります）。

井戸の水位は干満の差が激しく、寒の節（二十四節気の小寒の日から立春の前日までの約30日間）の水量で稲の作況を予知できると知られるようになりました。天明の頃（1700年代後期）には『作見の井戸』の呼称があったと伝わります。

かつての井戸口は木板を2枚渡しただけのものでしたが、昭和55年（1980年）に深谷・草野地区の有志が発起人となり、井戸や



尺棒を差し入れ水位を見ます。平成18年の「作見」の様子。（JAふくしま未来飯館営農センター提供）



作見水神を祀る祠や縁起を記した石碑などは昭和55年に整備されたもの。祠の左手に井戸があります。

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

新たな出会いを!!

『はたちの20冊』



今年も二十歳を迎えられた方々に『はたちの20冊』を実施しました。この事業では村で5冊、各界の著名人の方々が15冊、二十歳の皆さんのために本を選び『はたちの20冊』という冊子を作ります。その冊子の中から、村の二十歳の皆さんに1冊選んでもらい成人式に贈るものです。毎年、一般財団法人出版文化産業振興財団（JPIIC）のご協力のもと実施しています。

この『はたちの20冊』は、二十歳の方はもちろん多くの方々に読んでほしい本が紹介されていますので、ぜひ冊子を取り、新しい本との出会いを楽しんでいただきたいと思います。冊子は交流センターで配布しています。

いいたてイノサル通信

令和5年度の鳥獣対策を振り返る

広報いいたてへの連載を始めさせてもらってから、ほぼ1年が経ち、早くも令和5年度が終わろうとしています。そこで今回は今年度飯館村で、どのような鳥獣対策に関する取り組みが行われたかを振り返りたいと思います。

被害防除

村が補助を出し、農地に防護柵が設置されました。
■電気柵:52,647m ■ワイヤーメッシュ柵:25,828m

環境整備

鳥獣の隠れ場所や通路にならないよう、河川の除草を行いました。
■延長1,700m

捕獲

鳥獣被害対策実施隊により、捕獲が行われました。（捕獲頭数は1月末時点）
■イノシシ:130頭 ■ニホンザル:146頭 ■ハクビシン:36頭 ■カラス:35羽 等

地域支援

地域による鳥獣対策を推進するため、様々な支援をしました。
■伊丹沢：防護柵によるニホンザル防除試験やセンサーカメラ調査等の対策を総合的に支援（広報9・11月号参照）
■草野及び大久保・外内：鳥獣対策の考え方の説明や相談会を開催

普及

正しい知識を広め、被害を防げると思ってもらえるよう、様々な方法で普及を行いました。
■広報いいたて：令和5年5月から令和6年3月まで、計11回
■防護柵管理講習：2回開催（5月2日、12月7日）
■被害現場での対策助言

調査

効果的な対策の検討や実施した対策を評価するため、様々な調査を行いました。
■イノシシ痕跡調査（広報1月号参照） ■イノシシ捕獲状況調査 ■ニホンザル追跡調査
■ニホンザル被害農地でセンサーカメラによる侵入経路調査 ■ニホンジカ目撃情報収集

令和5年度は、対策支援の一環で、伊丹沢地区で地域と協力した取り組みが本格的に始まり、広報への連載や講習といった普及事業も実施できました。少しずつでも、総合的な対策、被害を減らす対策を支援できたと考えていますので、令和6年度もよろしくお願いします！



県道を渡るニホンザル（草野群）



伊丹沢役員会にて鳥獣対策の打ち合わせ



自動撮影のカメラが捉えたイノシシ

イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する鉄谷さんからのお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員

鉄谷 龍之 さん

平成31年4月から同支援員。令和3年から飯館村の鳥獣対策に携わり、今年度から村の主担当。専門は野生動物管理・鳥獣被害防除。

丹精込めて育まれた食材の 広がる魅力に感動

第19回

杉岡 誠 村長の

愛楽故郷味

あいらくふるさとみ



駆け足でやってきた春の空気が漂う如月。
2月の1か月間、仙台市にあるルート227カフェさんが「いいたてフェア」と銘打って、村産食材を使用したメニューを提供してくださいました。私も、ポスター、パンフレットに加えPR動画で飯館村「色」となったお店にお伺いして、「ハイカラ」なカフェメニューに変身した村産黒毛和牛、いいたて雪つ娘かぼちゃ、凍み餅をいただく中、他のお客様が飯館村メニューを楽しんでいる姿を見て、ついつい頬が緩んでしまいました。
18日の復興庁による情報発信事業「福島を味わう 食文化の結びPROJECT in 福島」では、春を前にして豊富な食材が揃う福島県の食の「底力」と、その滋味深い味わいに感動を覚えました。
23日には料理家の栗原はるみさんとシェフの大宮勝雄さんによる「オンライン料理教室」が開催され、2年前の村夏まつりにもお越しいただいたお二人に、今回は村産黒毛和牛と凍み餅を使つての多彩なお料理をこ教授いただきました。「まいたけ牛丼」「牛すじのカレーライス」「凍みもちのチリソース茶碗蒸し」「凍みもちのチーズカツレツ」と、そのどれもが創意工夫と愛情に包まれた絶品でした。村産食材の良さを最大限に引き出し、生産者さんが丹精込めて育んだ食材達に新たな「価値」を与えてくださる貴重なひとときとなりました。
24日には第2回「ワクワクあったかマルシェ」がもりの駅まごころにて開催されました。今回は6次化をテーマに多くの生産者さんが定番商品から新商品まで数々の商品を出品されましたが、特に国内で唯一、飯館村でのみ栽培しているもち米品種「あぶくまもち」の加工品が多かったことが印象的です。
この2月は、日時が重複して参加出来なかったイベントを含め「ふるさと」の担い手の皆さまによる村産食材の溢れ出る魅力発信が、これまでになく盛りだくさんでした。
また生産者さんたちの意欲や煌めきも、多方面の方々にお知りいただいた月間となったと思います。
新年度は、さらに多くの方々に村産農産物、ひいては飯館村民の魅力、「ふるさと」の担い手」による創意工夫をより知って、より感じて、より楽しんでいただけるよう、努めてまいります。

■ひとのうごき

誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の名前	行政区
やまと 三 浦 大 和 くん	勝 幸 さん 智 世 さん	深 谷

HAPPY BIRTHDAY!

ひとのうごき 令和6年2月1日現在

人 口	今月（前月比）	1月1日～31日までの人口動態
●男	2,358人（+1）	転入 8人
●女	2,316人（-13）	転出 13人
計	4,674人（-12）	出生 0人
世帯数	1,816戸（+4）	死亡 7人
		（住民基本台帳人口）

（1月21日から2月20日までに届け出のあったものを掲載）
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。

おくやみ

氏 名	年齢	行政区
菅 野 仲 治 さん	96	蕨 平
菅 野 重 廣 さん	66	二枚橋・須萱
八 巻 昭 代 さん	80	草 野
佐 藤 ツキ子 さん	85	上飯樋
久保内 マサイ さん	92	大久保・外内
佐 藤 多美子 さん	77	白 石
阿 部 サワ子 さん	90	佐 須
菅 野 眞理子 さん	72	比 曽
佐 藤 ミドリ さん	95	前田・八和木

ご冥福をお祈り申し上げます

飯館村地域おこし協力隊がつづる いいたて DIARY

最終回

協力隊の横山です。
まもなく年度末に差し掛かってきますが私もお店をオープンしてもうすぐ1年！時の流れは早いものです。

振り返ると村の方にも沢山来て頂き、一番多いコメントが「一人でやってんの!？」といった驚きの声です（笑）「よく一人で頑張ってるねえ」と言われますが、実際にはお客様である皆さんに協力して頂いてお店が成り立っていますし、時には村の方に野菜をお裾分けして貰う事も。なので私だけでなく皆んなで作り上げた空間だと私は感じています。

そんな人と人との繋がりを大切にして
2024年もままでに過ごしていきたいです。



今月のライター

地域おこし協力隊 横山 梨沙 さん

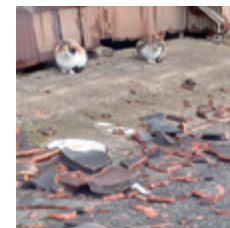
いいたて DIARY 最終回に寄せて

問 村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1622

令和2年6月号から3年6か月にわたり連載してきた「いいたてDIARY」。飯館村地域おこし協力隊として活躍した松本奈々さん、二瓶麻美さん、大槻美友さん、松尾洋輝さん、そして横山梨沙さんがリレー形式で担当し、それぞれの活動の様子をお伝えしてきました。ご協力、そしてご愛読をありがとうございました。「いいたてDIARY」は今回をもって連載終了となりますが、村ではフリーミッション型の地域おこし協力隊を引き続き募集しています。現役隊員の横山さんの他、卒業した隊員の皆さんも村内で活躍中です。関心をお持ちの方はぜひ一度お問い合わせを。

村民広報委員
ふじおさんの
いいたて 宝さがし

最終回 能登半島にて



今回私は、地震災害に見舞われた能登半島に、何か役に立つことはないかと思い、出かけてきました。行ってみると、東日本大震災を思わせるような、凄まじく想像を超える光景ばかりでした。

何年か前に飯館村役場に在職されていた山本実さん（石川県宝達志水町）を訪ね、瓦礫の片付け、壊れかけた家からの家具の持ち出し等の作業を手伝いました。

七尾市、穴水町、珠洲市をまわってみると、すべて断水でトイレも使えず、災害時にはいかに水が大切であるかを思い知らされました。友人、知人、そしてボランティアの方々が、皆一緒になって行う共同作業の「結い」というものが、どんなにか人間の生活において大事なことであり、必要不可欠であるかも知ることができました。

私たちの日々の中で普通の生活を普通にできるということが、本当に幸せなことであり、何にも増しての**宝物**なんだと感じてまいりました。たった数日間のお手伝いではありましたが、地震に見舞われた方々の1日も早い復興と、1日も早く普通の生活に戻られることを願うばかりです。



山本さん

2年間の人物を訪ねての「宝探しコーナー」は今月をもって完結にしたいと思います。ご愛読ありがとうございました。（F）

6年生が「村のよさ」を村外に発信しようと奮闘中！

活動の成果を携え「タウンミーティング」で提案

2月20日、いいいて希望の里学園の6年生が来庁し、タウンミーティングが開催されました。6年生は、一部に残る被災地に対するネガティブなイメージを課題と捉え、「村外の人も震災後の事実や「村のよさ」を伝えたい」とさまざまな形で発信を行っています。その成果を発表して村に協働を呼びかけました。児童は3班に分かれ、「農業5レンジャー」がレシピ開発を通じての成果を発表しました。

※「いいいて学」＝義務教育学校の特徴を生かして取り組んでいる学園独自の教科。



タブレット端末やパソコンを使い各班がプレゼンテーション。写真は「とくさんどうぶつプロジェクト」班。



それぞれの提案について、杉岡村長、高橋副村長、高橋教育長職務代理者と意見を交わしました。



特産品をモチーフに魅力的なキャラクターを創作。



3月中旬まで関連の展示を実施中。道の駅の展示（上）はレシピの投票ボードを設置したり、「とくさんどうぶつ」「飯館村検定」を紹介したりと充実。図図倉庫（左）にはグッズの試作品などをディスプレイ。

6年生が考えた 飯館村検定にチャレンジしよう！

今回の実施期間は3月20日まで

スマホでQRコードを読み取ってね



ゲーム感覚で楽しみながら村の特産品について学べる検定クイズを公開中。プログラミングやデザインなど全て児童が手がけたものです。村民の皆さんもぜひ挑戦してみてください。

〈編集後記〉

笑顔は人を元気にすることを改めて感じた月でした。取材中に見られる皆さんの飾らない笑顔は、見ているこちらまで笑顔にしてくれます。あたたかい人柄は、広報紙をより素敵なものにしてくれました。人のあたたかさに「日本でもっと美しい」ですね。（大和田）

学園の6年生の皆さんが「いいいて学」で

出会った村民の皆さんを誇り、人の在り方も村のよさだと語り、郷土愛をもってアイデアいっぱいの活動を展開しています（上の記事参照）。避難の期間に生まれた「ふるさと学習」が「いいいて学」のルーツ。あの時のバトンが手から手へつながれています。（星）